

## 保護した鳥の扱い

鳥の種類により、適正な温度・食事・対応が異なります。

細かく言うと同一種類でも1羽1羽異なりますので、わからない場合はいつでも連絡ください。基本的に鳥の体温は40～42度と高く、一度低体温になると落鳥します。

- カラスや鳩、ニワトリ、キジ類、アヒルについて(成鳥の場合)  
常温で大丈夫ですが、ケガをしている、足で立てていない場合は保温が必要です。
- ウズラについて 飼育状況によりますが本来暖かいところに生息する種類が多いです。  
小さい種類(ヒメウズラ)は保温が必要です。(23～25度程度)
- セキセイインコ オカメインコ  
基本室内飼いですが、最近ではブリードの関係から弱い個体が多いです。  
保護時は保温してください。(25度程度)
- 文鳥 十姉妹  
フィンチ類については保温をしてください。(25～28度)  
身体が小さい種類は2日食事をしないだけで落鳥します。
- ヒナの場合はどの種類でも自分で体温をあげることができないため、28～30度24時間の保温が必要です。

上記の鳥たちはペットショップで販売しているシード(種)と呼ばれる穀物類を主食としています。それだけでは栄養は不十分ですが、保護の間はお水とシードを与えてください。

野菜については小松菜は与えて構いませんが、外にあるハコベなどは除草剤、鳥インフルの感染などを招きますので与えないようにしてください。

ヒナ鳥については先に述べたシードを食べない場合があります。

また最近ではシードアレルギーやペレットしか与えていない飼い鳥も多いです。

その場合はシードを食べなかったり、与えても消化不良を起こす場合があります。

便の色が黒かったり(血便)、深い緑色(中毒便、絶食便)になるようでしたら 早めに連絡ください。

## ●気をつけなくてはならない鳥の種類

通常鳥のごはん(シードやペレット)を与えてはいけない鳥種があります。

糖質を多くとるこの種類の鳥たちに 通常のごはんを与えると内臓疾患が起こりますので必ず専用の食事を与えるようにしてください。

### 九官鳥

ロリキート(ゴシキセイガイインコ、ヒインコ、ズクロオトメインコ、オオハシ、サイチョウの類)

ストレスになりますので、保護した鳥を犬や猫のいる部屋におかないでください。  
爬虫類や猛禽類も同じです。

また既に鳥を飼育されている方は、家の鳥と接触させないようにしてください。

外にいたので、鳥インフルなどのウイルスなどに感染している可能性があります。

保護した鳥がおちついてから 検査をした上で接触させてください。